

加藤恭子ゼミナール 登竜門企画～20歳の頃～

MESSAGE

**経営コンサルティング・ファーム インターブレインズ
藤森俊一社長へのインタビューを通じて**

加藤恭子ゼミナール A班 大澤 桑原 後藤 山口

【はじめに】

私たちはこの課題を取り組むにあたり“雇われ社長”ではなく、自ら起業し悪戦苦闘を経験してきた“オーナー社長”にインタビューをしたいと考えました。そして、様々な社長に連絡をした結果、この藤森社長にアポイントメントを取ることが出来ました。インタビューの前に顔合わせとして「アントレラボ」という勉強会に参加し、その後1月30日にお話を伺いました。

【社長プロフィール】

経営コンサルティング・ファーム インターブレインズ

代表 藤森 俊一（ふじもり しゅんいち）

青山学院大学卒業後、(株)タナベ経営大阪本部に入社。その後、実父創業のニット製造工場に入社。88年独立し、ウノデザイン事務所を創業。89年(株)アートブレインズを設立、代表取締役役に就任。97年、実父ニット工場の代表取締役を兼務。2003年経営コンサルティングファーム・インターブレインズを開業。主に2世後継者・若き企業家の育成と経営指導を扱う。また98年より明治大学経営学部にて兼任講師を務める。

【インタビュー概要】

私たちはまず、藤森社長の20歳の頃についてお聞きしました。藤森社長は「2年の浪人を経て大学に入学したため、青春時代を失った」そうです。そのため、入学後は失った青春を取り戻そうとサークル・ゼミ・バイト等、自分がやりたい！と思ったことに積極的に取り組む学生生活を送っていたそうです。藤森社長にとって、この頃が人生のターニングポイントだったそうです。大学に入学した頃は、自分が志望していた大学に入学出来なかったということで、学校に誇りが持てず劣等感を抱いていたそうです。しかし、「どこの大学に入るかではなく、大学4年間で何を得るかが重要だ！」という教授からの言葉で目が覚めたそうです。そのような経験を積まれた藤森社長の座右の銘は、“夢を持ってそれを実

現させるために努力出来る人生は素晴らしい！”です。「現状に満足せず努力するところに進歩はある」とおっしゃっていました。

【私たちへのメッセージ】

まず就職活動では、「本当の審美眼をもつこと」だそうです。有名な会社や福利厚生等、“ブランド”で企業を選ぶ学生が増えているそうですが、そのような“ブランド”で選ぶのではなく、自分の創造性を発揮出来るところに就職してほしいとのことでした。そして学生生活では、「出会いは偶然ではなく、必然である！－出会いを大切に！－」というアドバイスをいただきました。出会いを待ち望むのではなく、自ら出会いの道を切り開いて、より多くの経験と失敗を積むことが大切だそうです。

【考察・感想】

藤森社長は、私たちが想像した以上にバイタリティーに溢れ、熱く・積極的な方でした。社長にお話を伺って、私たちがこれからどのように学生生活を送っていけばいいのか、参考になることがたくさんありました。その中で特に私たちが印象に残っているのが、以下の3つです。

- ・「出会いを大切に（偶然ではなく必然）」
- ・「自分から能動的に動く（積極的に物事に取り組む）」
- ・「現状に満足をしない」

藤森社長の七転び八起きの人生を聞き、自ら大変なこと・困難にぶつかっていき、それを乗り越えていくことで自分が成長し、より良い人生に変えることが出来ると思いました。多くの出会いと積極的なチャレンジを大切に行動していきたいです。

【発表を終えて】

出会って間もないゼミの仲間と、自己紹介から始まった今回の登竜門企画。「お互いのことをまだ何も知らないのに、このメンバーでやっていけるのだろうか？」と不安でした。発表練習の度に意見交換を行い、パワーポイントやレジュメを何度も修正し、発表本番を迎えました。発表は何度も練習をしたにも関わらず、緊張と焦りで持っている力を全て発揮することが出来ませんでした。しかし、この経験を通じ、班で協力することの大切さ・難しさを学ぶと共に、これから発表をする時の留意点も見つけることが出来ました。発表までの道のりは長く大変でしたが、班でやり遂げた時の喜びはとても大きいものでした。この企画で学んだことを、これからのゼミ活動に繋げていきたいと思います。